

この結果縫合糸の脱落または吸収までの日数は平均 Dexon 30.3日 Vicryl 28.2日 Catgut 14.0日であり術式間には差はなく今まで報告をされている日数よりはるかに短い。

#### 56. ヒルシスプルング病に対するデュアメル・スラマ変法 (映画)

真家雅彦, 高橋英世, 横山 宏  
大川治夫 (千大・小児外科)

我々は昭和47年よりデュアメル法による盲のう形成と直腸盲端の縫合不全を予防する目的でスラマ変法を用いている。現在迄に34例に施行し良好な成績を得ている。その手術手技の詳細について映画にて供覧した。

#### 57. 腎動脈狭窄性高血圧症に対する ex vivo surgery による 1 治験例

雨宮 浩 (国立循環器病センター研究所)

36歳主婦。右腎動脈狭窄による高レニン血症性高血圧である。右腎を摘出し、メラ腎灌流保存装置を用いて45分間の灌流保存下に狭窄部の切除を行い、右腸骨窩へ自家移植した。経過は順調で、高血圧を治癒せしめた。灌流保存装置を利用した ex vivo surgery は本邦第1例であり、またよく腎を温存し得たので報告した。この他、当センターでの死体腎移植2例、剝離性大動脈瘤手術に際しての8時間腎保存1例について紹介した。

#### 58. 生物弁の臨床使用経験

田宮達男, 西沢 直 (国立千葉)

最近 glutal-aldehyde 処理豚弁による弁置換術並びに弁付き人工血管を用いる Rastelli 手術 (大血管転位症) を経験し、良好な成績を納めたので報告する。上記生物弁使用に際し最大の利点は、全例塞栓の合併症がなく、かつ急速な心陰影の縮小をみたことである。又 Rastelli 手術が本生物弁の使用により容易化したことの意義は大きい。本弁の耐久性のみが今後の課題である。

#### 59. 北里大学における腎移植の現況 (IV)

渡部浩二, 柏木登 (北里大学臓器移植)

1972年より7年間に死体腎9例を含め105例の腎移植を数え、生着率は生体腎57.8%, 死体腎11.1%, 受腎者の生存率は夫々83.5%, 66.7%となった。輸血の Graft に及ぼす効果, 感作の有無, 肝炎発生率などについて述べた。またイムランと異なり肝障害を来たさずに強力に

免疫抑制効果を有する Bredinin の Beagle 犬腎移植に及ぼす positive な効果を示した。

#### 60. 筑波大学消化器外科の研究の現況

深尾 立, 尾崎 梓, 竹島 徹  
折居和雄, 岡村隆夫, 岩崎洋治  
(筑波大)

消化器外科グループとしておこなってきた主たる以下の研究テーマについて、その進展状況と成果について述べた。1. 胆道系疾患の外科治療, 2. 開創照射効果向上のための細胞同調利用に関する基礎研究, 3. 直腸吻合器, 注腸補助器の開発, 4. 外科的内視鏡治療 (食道静脈瘤栓塞療法, 凍結療法) 5. 水素血流量計の外科的利用, 6. 臓器移植 (腎保存, 移植免疫, 線溶)

#### 61. 早期食道癌症例の検討

小野沢君夫, 鍋谷欣市, 花岡建夫  
李 思 元, 新井裕二, 本島悌司  
(杏林大)

昭和48年から昭和53年11月までの切除食道癌症例は66例になり、このうち早期癌4例, 表在癌1例, R早期癌1例である。早期食道癌4症例を呈示した。深達度の浅い食道癌のスクリーニングはX線診断のみでは難しい場合もあり、我々はカプセル法食道擦過細胞診も併用している。

#### 62. 臍頭十二指腸切除110例の経験から

羽生富士夫, 小林誠一郎, 遠藤光夫  
木下 裕宏, 浜野 恭一, 鈴木博孝  
山田 明義, 鈴木 茂, 中村光司  
(東京女子医大・消化器病センター)

疾患別内訳は臍頭領域癌85例, 慢性膵炎16例その他9例計110例である。手術死亡は10例10%であり、さらに手術成績の向上を企むべく術前状態の改善と臍腸吻合の縫合不全の防止に努力した。すなわち残存臍の病態を考慮した上で、我々の縫合法の工夫と十分なドレナージの必要性について言及し、併せ予後等につき報告した。

#### 63. 食道再建術についての 2, 3

遠藤光夫, 羽生富士夫, 小林誠一郎  
木下祐宏, 浜野 恭一, 山田 明義  
鈴木博孝, 鈴木 茂, 中村 光司  
(東京女子医大消化器病センター)

食道再建術のうち、胸壁前食道胃吻合と、左開胸経横